

同期ロータリアン竹林さんのこと

米沢中央ロータリークラブに所属している竹林光裕さんは、私と同じ2023年（令和5年）10月に入会された同期のロータリアンです。竹林さんは私よりも6歳若く、建設会社の代表取締役社長として日々ご尽力されています。

ロータリークラブの「ロ」の字も知らない者として、「同期と親しくなりたい」という思いから、金曜日の例会にできる限り参加していましたが、お仕事で忙しいのか、たまたま私が出席した例会で欠席されているのか、竹林さんと会える機会が少ない期間が続きました。

そのような中、2024年7月12日（金）の通常例会で、「能登における職業奉仕」という題目で竹林さんの会員卓話がありました。

2024年1月1日に発生した能登半島地震発生後、石川県珠洲市で、支援ボランティアの方々が倒壊した家屋の撤去や処理をした瓦礫の仕分け作業に3月から従事しているとのこと。実際に竹林さん自身も何度も被災地に出向き、視察や作業を行っているとのこと、長期間例会に出席されていない理由やその詳細を知ることができました。

卓話の最後には「震災は決して他人事ではない。日常生活や仕事先、旅行先でも起こりうることなので、一人ひとりが震災への意識や危機感を持ち、備えを十分に行い、生活していかなければいけないと強く感じている。現在も復興支援に従事している最中だが、私を含め社員一同、この経験を無駄にせず、日々の仕事に活かすとともに、ひとりでも多くの方が当たり前の幸せや日常生活を送れるように精一杯務めて参りたい」と語られていました。

私自身も1度だけ支援活動のために輪島市へ向かいましたが、片道500km以上、車で7時間以上もかかる能登半島の被災地へ、何度も足を運び活動された竹林さんと社員の方の想いと行動力には頭が下がる思いでした。継続した活動により、想像もできないほど深く俯いた被災者の想いを明日へと前進させたと思います。正しくこの活動こそが、ロータリークラブが掲げる「奉仕活動」だと痛感しました。

ロータリークラブには、例会に4回連続で欠席し、メイクアップ（補填）をしない場合は退会となる規程があるようですが、当クラブの当時の会長（吉澤彰浩氏）も述べていた通り、支援活動中の竹林さんの欠席は例会に出席していることと同様であると私も思いました。

このようなロータリアンが、仲間（しかも同期）として同じクラブにいることはとても心強く、誇りでもあります。私も竹林さんを見習い、真の「奉仕活動」を行っていきたいと思います。

年齢も体力も立場も全員異なります。各会員それぞれができることをそれぞれができる範囲で行い、いざという時に一丸となって大きな力とするクラブになれるよう、今後も支援体制の基盤を固めていかなければならないと思っています。